韓国痴呆協会と「家族の会」が交流！

空港では横断幕でお出迎え

「家族の会」では10月４日～６日、「日韓交流・研修ツアーin韓国」をソウルで実施しました。これは、韓国痴呆協会（KAD）との覚書にもとづく、はじめての取り組みです。

日本側からの参加者は、認知症の本人５人、介護家族・専門職28人、スタッフ・ボランティア11人の総勢44人でした。

５日の学術大会では、在韓国日本大使の長嶺安政氏を迎え、日韓の研究者とともに認知症本人、家族が登壇しました。また、高齢者の社会参加モデルとして日本の高齢者生活協同組合からの報告が行われました。翌日のウォーキングイベント「歩きゴッキと文化探訪」は、台風の影響であいにくの雨でしたが、日韓の参加者が一つの傘を分け合って一緒に歩きました。

大勢の前ではじめてスピーチをしたご本人とご家族、もう二度と訪れることはできないと思っていた大好きな韓国に再び来ることができたという認知症の母と娘、通訳として参加してくれた日本語を学ぶ韓国の学生との世代を超えた交流、日常を離れ、思い切り気分転換ができたという介護者の方などなど…。政治や習慣の違いを越えて、新しい発見や出会いなど、たくさんの物語とつながりが生まれました。この成果を生かし、両国の課題解決に向けて連携を深めていきたいと思います。ご協力いただいたすべての方に感謝いたします。

10月4日（木） インチョン空港集合、移動後、打ち合わせと歓迎レセプション

5日（金）

日韓の本人・家族の発表

竹上夫妻（左）と安藤氏（岡山県支部）

●日韓共同認知症学術大会2018

〈開会式〉祝辞（駐韓日本国大使）

〈セッション１〉「若年性認知症」

○韓国の医師・研究者

○日本の医師・本人・家族

・川井元晴氏（山口県支部代表）・成本迅氏（京都府立医科大学）

・竹上恵美子氏・竹上康成氏・安藤光徳氏（岡山県支部）

・丹野智文氏（宮城県支部）・岩佐まり氏（神奈川県支部）

日韓の本人・介護家族が交流

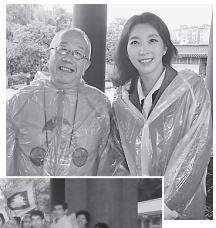
〈ランチョンセミナー〉「日本映画にみる“アクティブエイジング”」

〈セッション２〉「高齢者が主体的に生きる社会に向けて」

・高見優氏（高齢者生活協同組合会長）・稲月英雄氏（同、専務）

〈韓国痴呆協会・「家族の会」共同声明発表〉

〈展示〉これからの高齢者とロボットとの暮らし（同志社女子大学）、他


KAD広報大使の女優パク・イニョン氏と鈴木代表理事

●日韓交流夕食会　三清閣（サムチョンガク）にて

雨の中、世界遺産の庭園の中で「歩きゴッキ」

6日（土）

●日韓共同相合傘歩きゴッキと文化探訪行事2018

世界遺産「昌徳宮」を散策

自由行動の後、インチョン空港にて解散

本人登場
私らしく仲間とともに
No.157

中川　誠治（せいじ）さん
66歳・三重県支部

今回は、中川誠治さんの「またサーフィンしたいなぁ…」のつぶやきを、若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会「希望の灯り」の代表・下薗誠さんが受け止めて、「国府の浜（三重県志摩市）サーフィンプロジェクト」として実現した一大イベント「男たちの青春・夏の思い出」です。
（編集委員　松本律子）

「またサーフィンしたいなぁ…」のつぶやきが、１年後に実現!!

2017年９月、三重県津市で開催された「家族の会」三重県支部の講演会を聴きにきていた、中川誠治さんと下薗誠さんが出会ったのが、ことのはじまりでした。

下薗さんは中川さんのつぶやきを実現しようと、大阪で「希望の灯り」のメンバーに呼びかけるとともに、関係者への働きかけを、また中川さんの奥さまで三重県支部代表の中川絵里子さんが、志摩市役所への働きかけを開始されました。

各方面の様々な協力を得て、「サーフィンプロジェクト」として2018年８月、ついに実行されました。

プロジェクトの主役３人の男たちの思い出

中川　誠治さん　ひさしぶりにサーフィンしたけど、楽しかったよ。体で覚えたものは忘れてないみたいやなぁ。また誘ってください。サーフィン以外に料理も好きなんで、大人数でも大丈夫ですよ。私、人見知りしない性格なので、見かけたら、声をかけてくださいね。

高橋　功己（なるみ）さん（66歳）

楽しかったなぁ…昔を思い出したわ～。気持ちよかった。「家族の会」みんなで行けたことが、とてもよかったわ～。前夜祭のバーベキューも地域の人がたくさん来てくれて楽しかった。

曽根勝（そねかつ）　一道（かずみち）さん（69歳）

サーフィンは初めて体験した。いろんな人と話ができたし、一緒に楽しめたのがうれしい。みんな来てくれて、楽しい時間でした。みなさん、やさしくてありがたかった。サーフィンやってよかったよ。

一大プロジェクトを支えてくれたたくさんの人たち

コクヨ株式会社の田中さん、志摩市役所、日本サーフィン連盟三重支部、志摩市民病院、三重大学医学生、民宿オーナー、森ノ宮医療大学（大阪）教授、特別養護老人ホーム年輪、堺市認知症介護指導者の会、「希望の灯り」、「家族の会」三重県支部の総勢40人のみなさん。もちろん、３人の奥さまたちも。

情報コーナー　本人交流の場
（詳細は各支部まで）

宮城◉12月6日・20日㈭10:30～15:00／翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形◉12月17日㈪13:30～15:30／若年認知症の人と家族のつどい→篠田総合病院
埼玉◉12月15日㈯11:00～14:30／若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館
●**12月26日㈬**11:00～13:00／若年のつどい・大宮（北区）→地域包括支援センター　諏訪の苑
愛知◉12月8日㈯13:30～16:00／「元気かい」→東海市しあわせ村
三重◉12月23日㈰㈷13:30～15:30／若年のつどい→四日市総合会館
京都◉12月16日㈰13:30～15:30／若年のつどい→京都社会福祉会館
鳥取◉12月22日㈯11:00～15:00／東部にっこりの会→コモン吉方温泉
広島◉12月15日㈯11:00～15:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
●**12月22日㈯**11:00～15:30／陽溜まりの会西部→廿日市市総合健康福祉センター（あいプラザ）
福岡◉12月5日㈬10:00～12:30／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ

千葉県支部

楽しかった「若年・本人のつどい」

暑～い！夏が過ぎようとする８月最後の日曜日、千葉県社会福祉センター５階大研修室で、「若年・本人のつどい」を開催しました。助言者に柏戸病院副院長・柏戸孝一先生をお迎えし、行政からは県高齢者福祉課からもお二人が参加され、合計46名の参加者となりました。

全員で車座になり、自己紹介の後、秋田弁の“お国言葉ラジオ体操”で身も心もほぐしてから、本人と家族の二手に分かれて、「つどい」が始まりました。

本人グループは、いつもは近くの公園行きが楽しみの一つですが、当日35℃の暑さで熱中症が気がかりなのと、「ゆっくり話が聞きたいね」の気持ちから、室内で「楽しいこと」「食べたい物」「好きなこと」などなど…。聞き上手！話し上手！それをファイルに書き込みました。ファイルの好きなところに好きなシールを貼り、それぞれに素敵な表紙ができました。その後、懐かしい歌を歌い、炭坑節を踊って楽しみました。

本人、子どもサポーターも一緒に踊った炭坑節

一方、家族は２グループに分かれ、柏戸先生を交えて真剣に話し合いました。

全国の「家族の会」支部会報から活動を紹介!!

いきいき「家族の会」まちでもむらでも

編集委員／内田妙子

佐賀県支部

カフェ・オレンジで子どもボランティア

佐賀県支部では９月16日、カフェ・オレンジを開催しました。本人５名、家族８名、そのほかスタッフやボランティア総勢32名の参加でした。今月は若年性認知症の本人とそのお友だちがクラフトバンド（紙でできた硬いテープ）で作る「かご作り教室」を開いてくださいました。子どもボランティアの小学生３名は、素敵なかごができてとても喜んでいました。

子ども達が作業療法士の先生の助手として活躍

今月も、ランチタイムは食べきれないほどのご馳走が並びました。食後は尺八の演奏に耳を傾けながら談笑し、最後に作業療法士の先生に歌いながら楽しくできる指の運動を教えていただきました。子どもボランティアのゆきちゃんとだいくんが２人で助手をしてくれ、皆さんに笑顔が広がりました。

小学１年生のだいくんは、「４月からおにいさん、おねえさんといっしょにカフェ・オレンジでボランティアをしています。大好きな緑色のかごを作り、難しいところはお兄ちゃんに少し手伝ってもらい、完成しました」と感想を書き、かごに大切なおもちゃを入れて帰りました。

佐賀県支部

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

徘徊ＳＯＳネットワークと警察

●埼玉県　Ａさん　40歳代　女性

アルツハイマー型認知症と診断された母は、徘徊があるため、市の徘徊SOSネットワークに登録していました。実際徘徊があり、警察に通報しましたが、警察とSOSネットワークは全く情報共有がされておらず、徘徊捜索中に、画像提供と捜索願の届け出が必要でした。警察は事前の届け出は一切受け付けず、再度徘徊があった時には、また画像提供と捜索願の届け出が必要だそうです。現行制度を変える必要性を痛感しています。

自分の心と言葉を別にする

●岐阜県　Ｂさん　90歳代　女性

15年前に夫は亡くなりました。上手に申せませんが、よき介護は最初が大切。病人が出る以前に、呆けないための勉強をしておくと、ひどくならなくて、困りごとが増えなくてすみます。わかりにくい病気ゆえ、つい変わったことを言われると、反対したくなるけど、絶対ダメ。プライドを傷つけないこと。「そうそう…」と聞き流し、あとは飲み物などで一緒に「美味しいね」で終わらせる。声も優しく、近くで言うこと。

介護者が変わること。その時だけで、一日中変ではないので、その一瞬、心と言葉に気を付ける。自分の心と言葉を別にする。難しいけれど…実行。

介護と仕事の両立は困難

●新潟県　Ｃさん　40歳代　女性

去年から変わらず、要介護３の父と要介護４の母を在宅で一人で介護しています。デイサービス、ショートステイ、ヘルパーなど利用していますが、費用負担が大きく、兄から少し金銭面で助けてもらっていますが、兄にも家庭があるため、請求しにくいです。「ぽ～れぽ～れ４月号」にも載ってましたが、「介護離職の現実」の気持ち、わかります。私も両親の介護費用を捻出するのに、働きに行こうかと思いますが、介護と両立できる仕事がなかなかないのが現実だと思います。

特養に申し込んでいますが、順番が回ってこないし…。両親のどっちかが急に体調を崩すと、一人で留守番になるので、ハラハラドキドキしながら生活しています。父の尿失禁がひどく、後始末をしてから仕事に行くのも難しいのです。両親とも誤嚥性肺炎のリスクもあるため、調理にも時間がかかるし、介護するために私は生まれてきたのかと思うと、憂うつというか、何の楽しみもなく生活しています。国は、待機児童ばかり目を向けていないで、介護で仕事をしたくてもできない人がいる現実を知ってほしいです。親の死後、仕事を探す時に、ブランクが長すぎて不採用になる不安もあります。すぐ仕事が見つかる環境作りなど考えてほしいです。

妻とわかっていると信じて

●愛知県　Dさん　70歳代　女性

認知症と診断されて５年の間に、完全にちかく記憶がなくなりました。何もできません。現在、特養に入居しています。週に５回程会いにいきます。

歩けなくならないよう、フロアー内を二人で散歩しています。他の入居者とのかかわりについて気を使います。話しかけてくる人、手をかしてやりたい人など、余分なことはしてはいけないと思い、挨拶程度にとどめています。２時間いるのが精いっぱいです。心の内なるどこかで、私を妻として思っていてくれると信じて通っています。

眉間にしわを寄せている母

●宮城県　Eさん　60歳代　女性

要介護３、80歳代の母は、2018年５月より実家近くの特養に入居しましたが、昔の辛かったことをワンワン泣きながら、「悔しかったぁー」と大きな声で何度も同じように言います。母の顔は眉間にしわを寄せて、穏やかな顔をしていないのが、とても気になります。かわいそうで、帰る時、とても辛くなります。母のためにはどうしたら良いのかと考えてばかりです。

足が丈夫で急に出かけてしまう…

●徳島県　Fさん　70歳代　女性

70歳代の夫は、去年の２月にアルツハイマー型認知症と診断され、要介護１です。足が丈夫なので、すぐ外に出て散歩に行こうとします。用意もせずに、急に出かけてしまう。気をつけているのですが、わからない時は困ってしまう。今は家を忘れずにいるのですが…。

自分で食べられなくなったら…

●京都府　Gさん　80歳代　男性

特養に入居する前には、本人と家族で、終末期のことについて話し合っておく必要があると思います。自分で食べられなくなった時に、経管栄養にするか、介助による経口摂取で自然の経過にまかせるか。本人が意思表示ができなくなれば、家族が本人の意向を忖度して決めることになります。

施設に入る時期かな…

●東京都　Hさん　60歳代　女性

80歳代の実母は２年前くらいに、冷蔵庫に茶碗を入れていて、あれっ？と思ったのが最初です。でも、昨年10月ころまではまったく通常に生活できていて、認知症と医師に言われていましたが、大げさなことと思っていました。平成29年４月に、医者から処方された認知症の進行を遅くするというパッチを貼ったのですが、めまい、嘔吐、過呼吸が出て、救急搬送。その後、半分にしたものの同じ症状が出て、二度目の救急搬送。医者に「認知症の治療はしません、自然のままにします」と告げました。

しかし、今年に入り急激に進行し、今は鏡の認識もできず、話をしていても代名詞（あれ、それ、あそこ等）ばかりで、会話は成り立ちません。ここ１ヵ月では、シャツをはく、パンツ一枚で平気でいるなどが顕著になりました。そんな母を見て、夫は文句を投げかけます。そんな夫を見ることが、今は一番気が滅入ることです。

母の状態は仕方がないと思っています。なので、夫のそんな姿を見たくないこと、昼間母が一人でポツンと外を眺めている姿や鏡に映った自分に笑いながら話しかけている姿を見ていると…施設に入れようかと考えています。

悩んでいるご家族に良い知恵があればお寄せください。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。